

2022年4月26日

第35回「京都美術文化賞」受賞者決定について

このたび、公益財団法人 中信美術奨励基金（理事長 白波瀬 誠）では、財団の顕彰事業である第35回「京都美術文化賞」の受賞者を決定しましたのでお知らせいたします。

記

1. 第35回「京都美術文化賞」受賞者・受賞理由

伊庭 靖子（いば やすこ・54歳）洋画

身近な物の質感を柔らかな光で包む美しい作品で現代絵画表現に独自の世界を拓く。

笹井 史恵（ささい ふみえ・49歳）漆芸

豊かな造形により独自の存在感を示し、漆彫刻分野を牽引する役割を果たす。

中原 浩大（なかはら こうだい・60歳）現代美術

独自の思考で多様な素材を扱うアイデアマンとして高い実力を有する。

2. 贈呈式

日時 2022年5月26日（木）午後2時
会場 ウェスティン都ホテル京都 葵殿
京都市東山区三条けあげ TEL 075（771）7111

3. 京都美術文化賞について

美術の創作活動を通じて京都府市民の精神文化向上に多大の功績があった方に対し、「京都美術文化賞」として賞牌と賞金1人金200万円を贈呈し、創作活動を奨励しています。

1988年5月の第1回に始まり、今回で第35回目の贈呈となりました。

(1) 選考委員(敬称略)

太田 垣 實 (美術評論家)
潮江 宏 三 (京都市立芸術大学名誉教授)
篠原 資 明 (京都大学名誉教授)
福永 治 (京都国立近代美術館長)
冷泉 為 人 (公益財団法人冷泉家時雨亭文庫理事長)

(2) 受賞記念展の開催

2023年1月開催予定

於:京都文化博物館

(3) 過去の受賞者 (別紙一覧参照)

・受賞者総数 105名(今回を含む)

絵画 38名 (日本画19名 洋画13名 版画6名)

彫刻 13名

工芸 38名 (染織13名 陶芸17名 漆芸4名 截金1名 截金ガラス1名
人形1名 ガラス造形1名)

その他 16名 (写真3名 ファイバーアート4名 マルチメディアアート1名
現代美術7名 花人1名)

・受賞後の活躍

第1回受賞 秋野不矩氏、1999年度文化勲章受章

第7回受賞 黒崎彰氏、2008年瑞宝中綬章受章

第9回受賞 岩倉寿氏、2003年日本芸術院賞受賞、2006年芸術院会員

第9回受賞 木村光佑氏、2012年瑞宝中綬章受章

第13回受賞 江里佐代子氏、2002年人間国宝認定 (当時史上最年少)

第19回受賞 宮瀬富之氏、2009年日本芸術院賞受賞、2022年芸術院会員

第24回受賞の森村泰昌氏、2011年紫綬褒章受章

など、受賞後の活躍はめざましいものがある。

(4) 「京都美術文化賞」の意義

伝統ある京都の芸術を発展させ、京都からすばらしい芸術家を誕生させる刺激となっている。美術関係者からは、この賞の足跡について「京都の優れた芸術が集まり、京都の美術界の流れをあらわしていて意義深い」と評価をいただいております。

5. 公益財団法人 中信美術奨励基金について

京都中央信用金庫の預金量一兆円達成(1986年11月)を記念し、1987年4月1日に設立しました。京都府下における美術の創作活動を奨励し、伝統的文化の継承発展並びに京都府・市民の精神文化向上に寄与することを目的としています。2011年4月1日より公益財団法人に移行しました。2019年京都市芸術振興賞を受賞いたしました。

以 上

第35回京都美術文化賞受賞者略歴（敬称略）

伊庭 靖子（いば やすこ） 洋画

1967年京都市生まれ。'90年嵯峨美術短期大学版画科専攻科修了。'99年仏・モンブランカン、2001～'02年ニューヨークにて滞在制作を行う。身近なモチーフを撮影した写真をもとに、素材の質感や空気感を繊細な色彩で表現し、手触りなどの見えないものを視覚化することで、記憶や触感と結びつく豊かな世界を描き出す。

展覧会：'97年「思い出のあした」（京都市美術館）、'98年「VOCA 展 '98 現代美術の展望—新しい平面の作家たち」（上野の森美術館／東京、奨励賞受賞）、'03年「こもれび展」（水戸芸術館現代美術センター／茨城）、'05年「秘すれば花：東アジアの現代美術」（森美術館／東京）、'07年「椿会展 2007 Trans-Figurative」（資生堂ギャラリー／東京、'09、'10）、「ダイアログ コレクション活用術 vol.2」（滋賀県立近代美術館）、'09年個展「伊庭靖子展—まばゆさの在処—」（神奈川県立近代美術館）、'12年「虹の彼方—こことどこかをつなぐ、アーティストたちとの遊飛行」（府中市美術館／東京）、'19年個展「伊庭靖子展 まなごしのあわい」（東京都美術館）、「みつめる—見ることの不思議と向き合う作家たち—」（群馬県立館林美術館）、'22年「感覚の領域 今、「経験する」ということ」（国立国際美術館）など多数。

受賞：'03年第21回京都府文化賞奨励賞、'10年第20回タカシマヤ美術賞、'11年平成23年度滋賀県文化奨励賞、'19年第29回秀明文化賞、'22年第40回京都府文化賞功労賞

代表作：「untitled 2006-06」（'06年）、「untitled 2008-09」（'08年）、「untitled 2018-02」（'18年）など。



笹井 史恵（ささい ふみえ） 漆芸

1973年大阪府生まれ。'98年京都市立芸術大学大学院美術研究科漆工専攻修了。2003～'05年タイ国立チェンマイ大学にて滞在制作を行う。漆独特のふっくらとした丸みとエッジ、それにより生まれる陰影を特徴とする軽やかで表情豊かな作品を生み出す。京都市立芸術大学准教授。

展覧会：'06年「内なるこども」（豊田市美術館／愛知）、'09年「笹井史恵×田嶋悦子〜イン・ザ・フラワー・ガーデン」（茨城県つくば美術館）、個展「愛しきかたち」（豊田市美術館／愛知）、'13年個展「みのり」（高島屋美術画廊／東京 他）、'15年個展「春」（祇をん小西／京都）、'16年「革新の工芸 “伝統と前衛”、そして現代」（東京国立近代美術館工芸館）、'17年「Designing Japan」（フィラデルフィア美術館／アメリカ）、「Hard Bodies」（ミネアポリス美術館／アメリカ）、個展（Galerie an der Pinakothek der Moderne／ドイツ）、'18年「漆の現在 2018」（日本橋三越美術画廊／東京）、'19年 個展「空のさかな」（高島屋美術画廊／京都 他）、'20年「漆ウルトラ展」（高島屋美術画廊／京都 他）、「Challenge—漆三人展」（艸居／京都）、'21年「華やぎの工芸展」（銀座和光ホール／東京）など多数。

受賞：'99年京都工芸美術作家協会展 第30回記念賞、'14年京都市芸術新人賞、'15年第25回タカシマヤ文化基金タカシマヤ美術賞、第33回京都府文化賞奨励賞

代表作：「華1」（'08年）、「かさね8」（'15年）、「藍洞—碧」（'20年）など。



中原 浩大（なかはら こうだい） 現代美術

1961年岡山県生まれ。'86年京都市立芸術大学大学院美術研究科修士課程彫刻専攻修了。'80年代前半より多くの自主企画によるグループ展に参加し、様々なスタイルを変えながら、インスタレーション・立体・平面等の作品を発表。'90年の個展「Homage to the LEGO age」以降、美術作家としての自身の文脈やあり方を問い直すとする作品を発表、2000年以降は共同研究やプロジェクトへの参加、ツバメの孵入りの観察記録、自己の幼少期の描画物を一覧する展示を企画するなど、幅広い活動を志向し展開する。京都市立芸術大学美術学部教授。



写真:福永一夫

展覧会：'82年「フジヤマゲイシャ」（東京藝術大学展示室、京都市立芸術大学ギャラリー）、'90年個展「Homage to the LEGO age」（Heineken Village／東京）、'92年個展「Post Hobby」（佐谷画廊／東京）、「Anomaly」（レントゲン藝術研究所／東京）、'93年「Aperto '93 XLV Biennale de Venezia」（イタリア）、'05年「景観ーもとの島ー」（せんだいメディアテーク／宮城）、'06年個展「vol.2 ツバメ/Swallows 2005」（ノマル・プロジェクトスペース／大阪）、'10年「生存のエシックス」（京都国立近代美術館）、'12年個展「Drawings 1986-2012 コーちゃん、ゴギガ？」（伊丹市立美術館／兵庫）、'13年個展「自己模倣」（岡山県立美術館）、'17年個展「Educational」（ギャラリーノマル／大阪）、'22年「人間の才能 生きることと生みだすこと」（滋賀県立美術館）など多数。

受賞：'90年京都市芸術新人賞 造形分野、'17年第35回京都府文化賞 功労賞

代表作：「吊梁；可動；持ち物」（'85年）、「無題（レゴ・モンスター）」（'90年）、「Educational」（'17年）など。

京 都 美 術 文 化 賞 受 賞 者

※は故人

第1回(1988年5月)	※秋野 不矩(日本画)	※小牧 源太郎(洋画)	坪井 明日香(陶芸)
第2回(1989年5月)	※麻田 浩(洋画)	小清水 漸(彫刻)	※伊砂 利彦(染色)
第3回(1990年5月)	※中野 弘彦(日本画)	※三尾 公三(洋画)	※藤平 伸(陶芸)
第4回(1991年5月)	竹内 浩一(日本画)	井田 彪(彫刻)	樂 吉左衛門(陶芸)
第5回(1992年5月)	※吉原 英雄(版画)	※野崎 一良(彫刻)	※南 祥輝(漆芸)
第6回(1993年5月)	中野 嘉之(日本画)	内田 晴之(彫刻)	面屋 庄甫(人形)
第7回(1994年5月)	※黒崎 彰(版画)	※鈴木 治(陶芸)	※来野 月乙(染色)
第8回(1995年5月)	※下村 良之介(日本画)	番浦 有爾(彫刻)	深見 陶治(陶芸)
第9回(1996年5月)	※岩倉 寿(日本画)	木村 光佑(版画)	※富樫 実(彫刻)
第10回(1997年5月)	※下保 昭(日本画)	※齋藤 眞成(洋画)	※西嶋 武司(染色)
第11回(1998年5月)	※芝田 耕(洋画)	※山田 光(陶芸)	澁谷 和子(染色)
第12回(1999年5月)	※小嶋 悠司(日本画)	林 康夫(陶芸)	※服部 峻昇(漆芸)
第13回(2000年5月)	※堂本 元次(日本画)	※井上 隆雄(写真)	※江里 佐代子(截金)
第14回(2001年5月)	※渡辺 恂三(洋画)	木代 喜司(彫刻)	福本 繁樹(染色)
第15回(2002年5月)	※岩本 和夫(日本画)	小林 陸一郎(彫刻)	※栗木 達介(陶芸)
第16回(2003年5月)	※森本 勇(洋画)	竹内 三雄(彫刻)	河田 孝郎(染色)
第17回(2004年6月)	加藤 明子(洋画)	※木田 安彦(版画)	林 秀行(陶芸)
第18回(2005年6月)	吉川 弘(日本画)	柳原 睦夫(陶芸)	望月 玉船(漆芸)
第19回(2006年6月)	西野 陽一(日本画)	宮瀬 富之(彫刻)	上野 真知子 (ファイバーアート)
第20回(2007年6月)	※入江 酉一郎(日本画)	平岡 靖弘(洋画)	井隼 慶人(染色)
第21回(2008年6月)	木村 秀樹(版画)	秋山 陽(陶芸)	松本 ヒデオ(陶芸)
第22回(2009年6月)	三橋 遵(染色)	八木 明(陶芸)	甲斐 扶佐義(写真)
第23回(2010年6月)	西久松 吉雄(日本画)	野村 仁 (マルチメディア・アート)	田島 征彦(染色)
第24回(2011年6月)	山本 容子(版画)	小林 尚美 (ファイバーアート)	森村 泰昌(現代美術)
第25回(2012年5月)	川村 悦子(洋画)	福本 潮子(染色)	伊部 京子(ファイバーアート)
第26回(2013年5月)	麻田 脩二(染色)	清水 六兵衛(陶芸)	川瀬 敏郎(花人)
第27回(2014年5月)	畠中 光享(日本画)	西野 康造(彫刻)	生田 丹代子(ガラス造形)
第28回(2015年5月)	浅野 均(日本画)	今村 源(彫刻)	久保田 繁雄(ファイバーアート)
第29回(2016年5月)	森田 りえ子(日本画)	松井 利夫(陶芸)	ヤノベ ケンジ(現代美術)
第30回(2017年5月)	箱崎 睦昌(日本画)	山部 泰司(洋画)	やなぎ みわ(現代美術)
第31回(2018年5月)	小名木 陽一(織)	重松 あゆみ(陶芸)	鈴鹿 芳康(写真造形)
第32回(2019年5月)	名和 晃平(彫刻)	八幡 はるみ(染)	柏原 えつとむ(現代美術)
第33回(2020年5月)	近藤 高弘(陶芸)	山本 茜(截金ガラス)	宮永 愛子(現代美術)
第34回(2021年5月)	大野 俊明(日本画)	児玉 靖枝(洋画)	高橋 匡太(現代美術)
第35回(2022年5月)	伊庭 靖子(洋画)	笹井 史恵(漆芸)	中原 浩大(現代美術)

絵画 38名(日本画19名 洋画13名 版画6名)

彫刻 13名

工芸 38名(染織13名 陶芸17名 漆芸4名 截金1名 截金ガラス1名 人形1名 ガラス1名)

その他 16名(写真3名 ファイバーアート4名 マルチメディアアート1名 花人1名 現代美術7名)

計 105名